

島根県の地震

令和6（2024）年5月

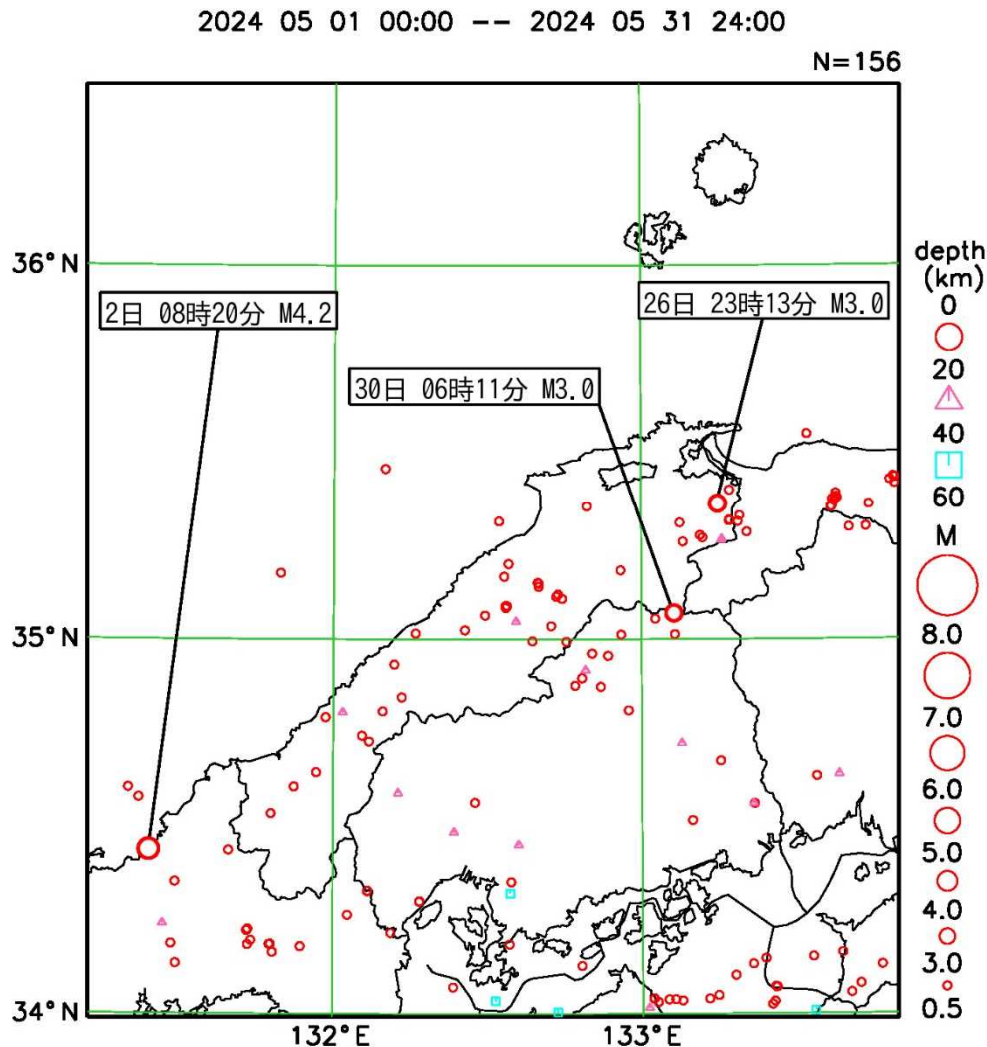
・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2024年5月1日～31日



[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は156回（4月は118回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、3回でした。

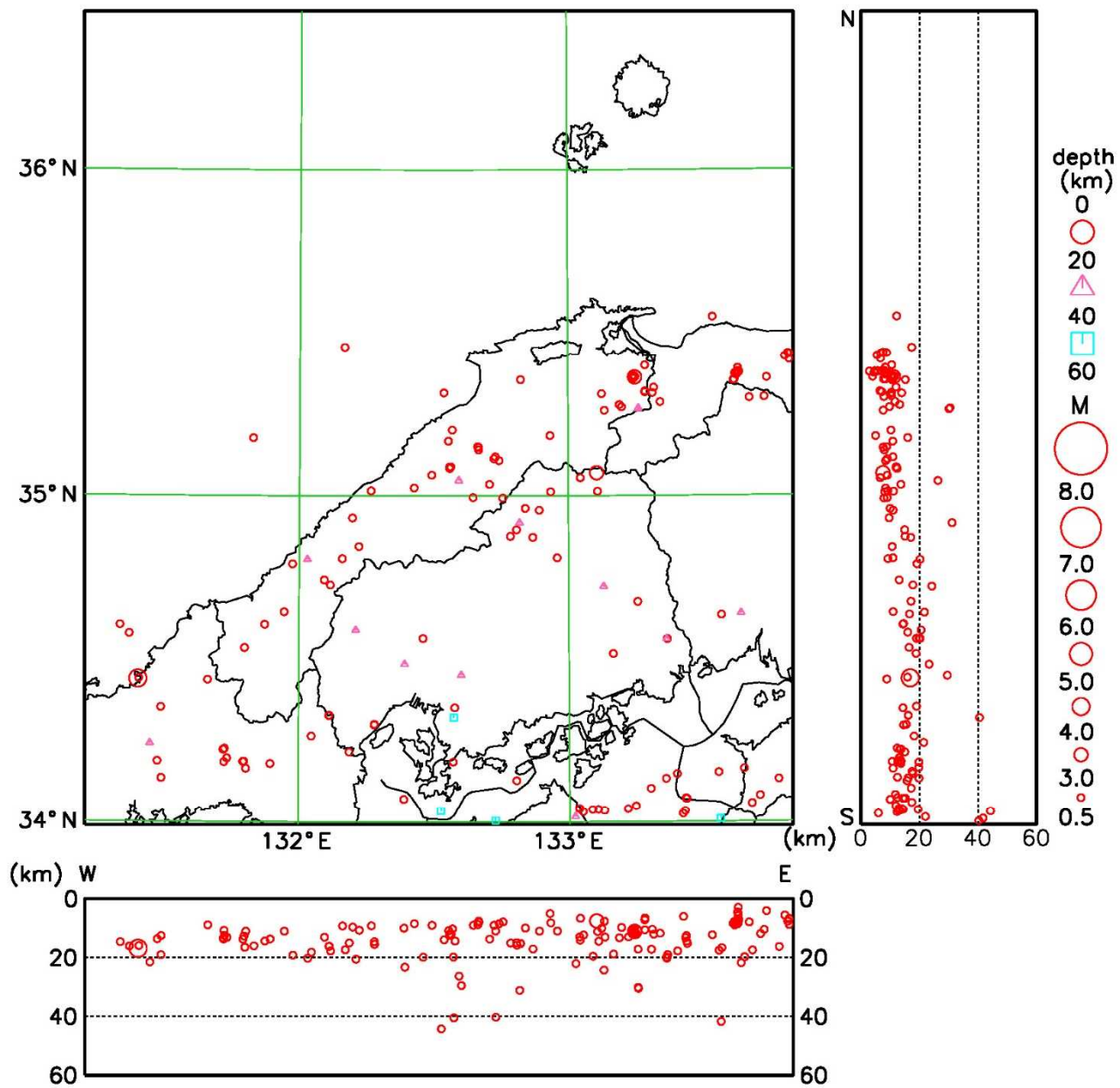
2日08時20分 山口県北西沖の地震（深さ17km、M4.2）により、浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、津和野町、美郷町、邑南町、吉賀町で震度1を観測しました。山口県萩市・長門市・阿武町で震度3を観測したほか、広島県、山口県、福岡県、大分県で震度2～1を観測しました。

26日23時13分 島根県東部の地震（深さ11km、M3.0）により、安来市で震度2、松江市で震度1を観測したほか、鳥取県で震度2～1を観測しました。

30日06時11分 広島県北部の地震（深さ8km、M3.0）により、奥出雲町で震度1を観測したほか、広島県で震度1を観測しました。

[断面図]

2024 05 01 00:00 -- 2024 05 31 24:00



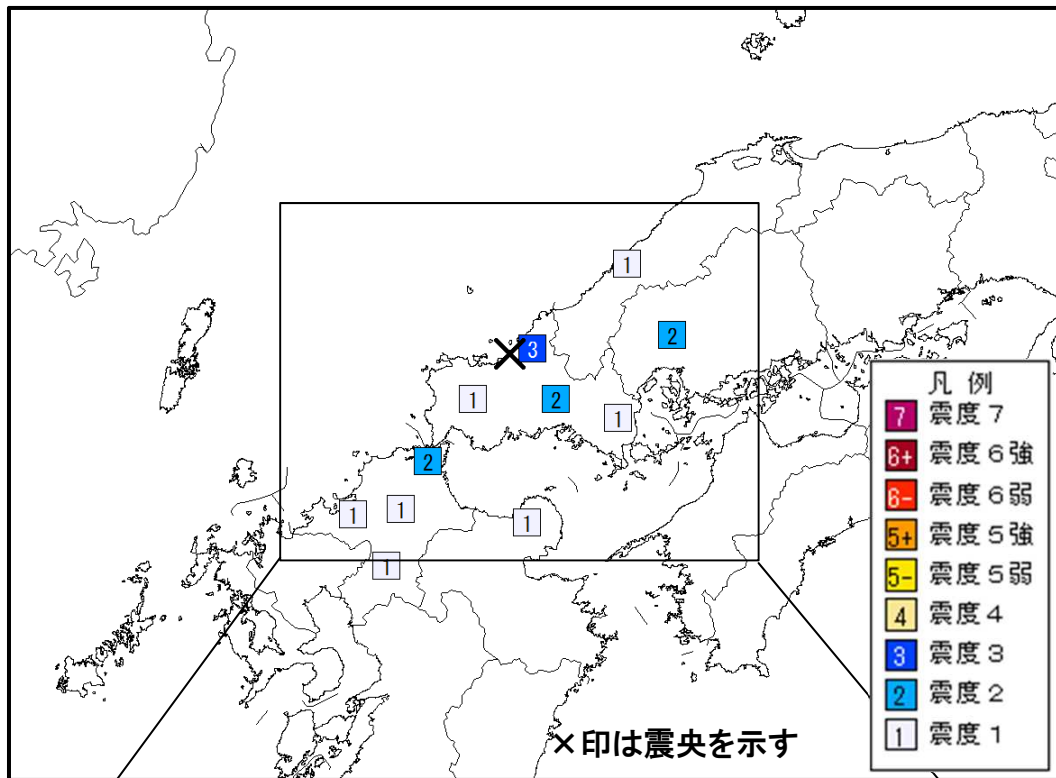
5月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2024年05月02日08時20分 ----- 地点震度 -----	山口県北西沖	34° 26.2' N	131° 24.3' E	17km	M4.2
島根県	震度 1：浜田市大辻町, 浜田市三隅町三隅*, 浜田市殿町*, 益田市常盤町*, 大田市温泉津町小浜*, 江津市江津町*, 川本町川本*, 津和野町後田*, 津和野町枕瀬*, 島根美郷町都賀本郷*, 邑南町下口羽*, 邑南町瑞穂支所*, 吉賀町六日市*, 吉賀町柿木村柿木*				
2024年05月26日23時13分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 21.7' N	133° 14.9' E	11km	M3.0
島根県	震度 2：安来市伯太町東母里* 震度 1：松江市東出雲町揖屋*, 松江市八雲町西岩坂*, 安来市広瀬町広瀬祖父谷丁*, 安来市安来町*				
2024年05月30日06時11分 ----- 地点震度 -----	広島県北部	35° 04.1' N	133° 06.3' E	8km	M3.0
島根県	震度 1：奥出雲町横田*				

・地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

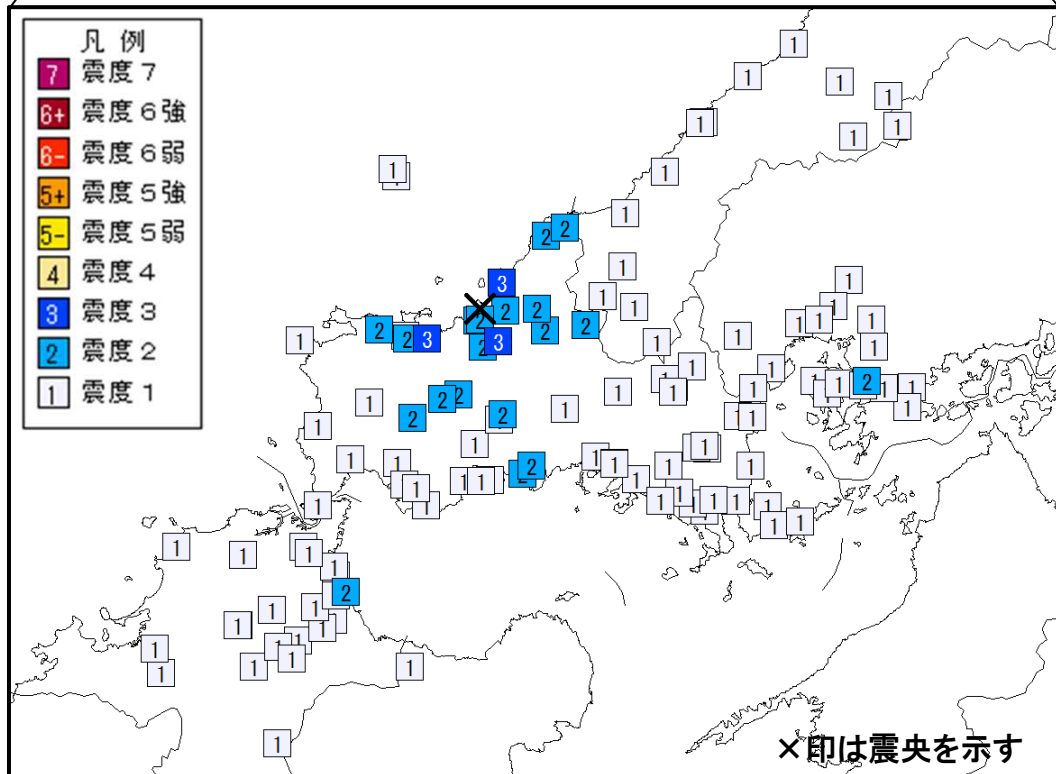
【地域震度分布図】

2024年5月2日08時20分 山口県北西沖



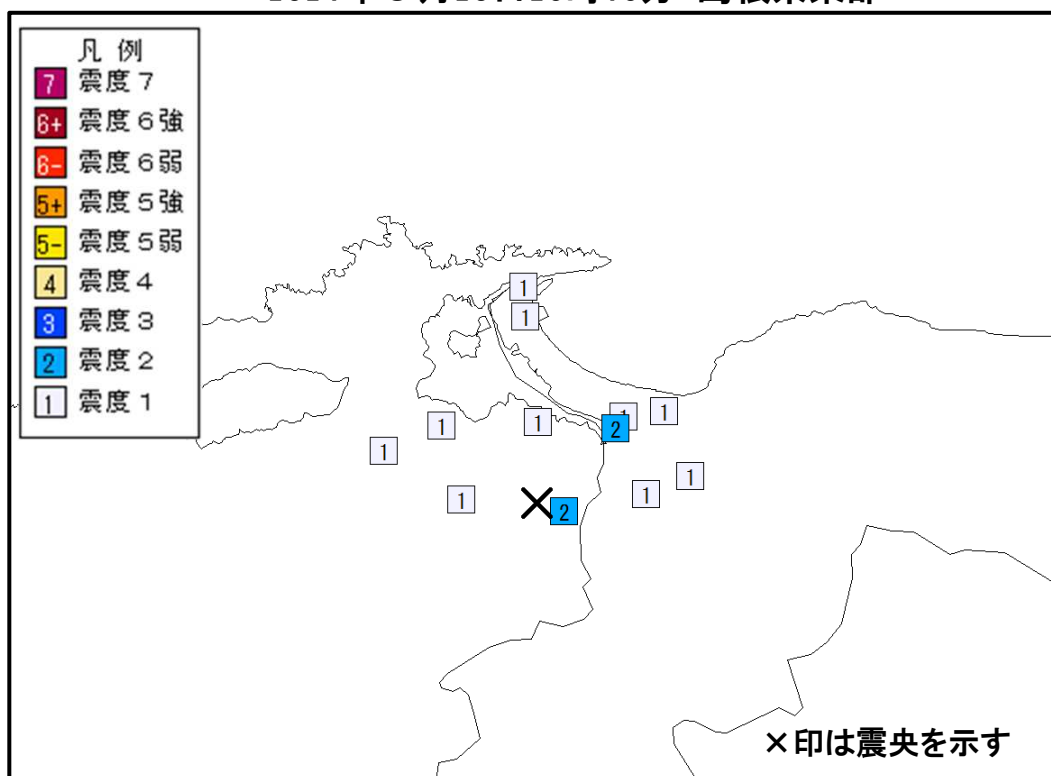
【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



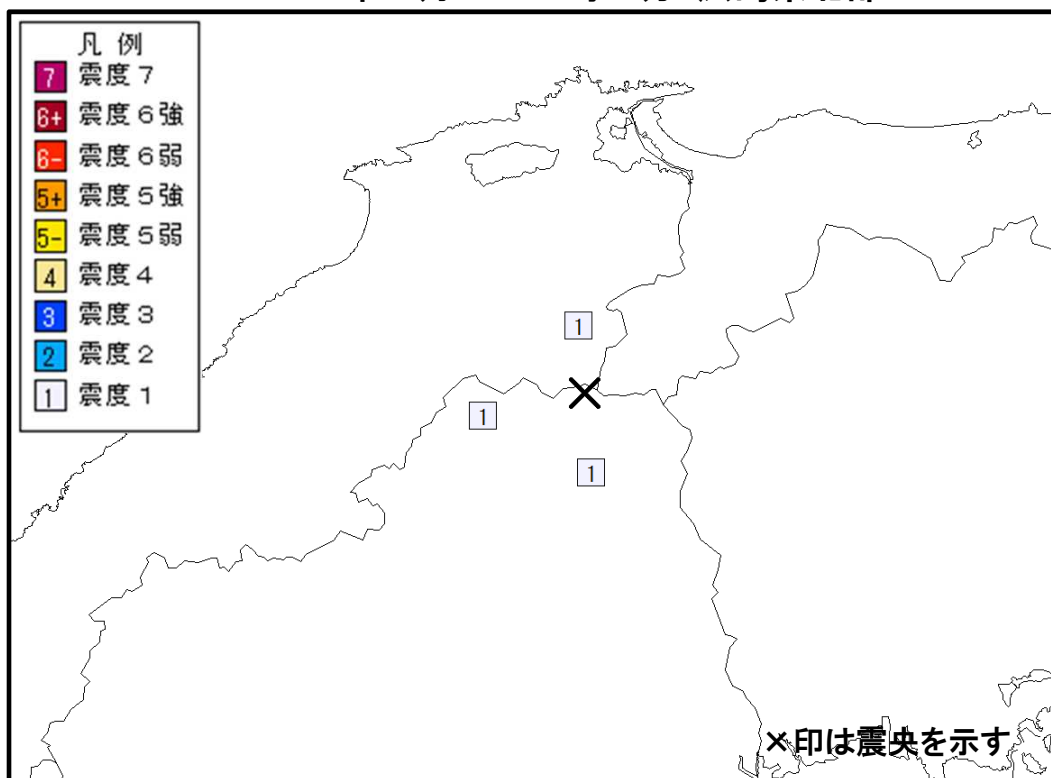
【観測点震度分布図】

2024年5月26日23時13分 島根県東部



【観測点震度分布図】

2024年5月30日06時11分 広島県北部



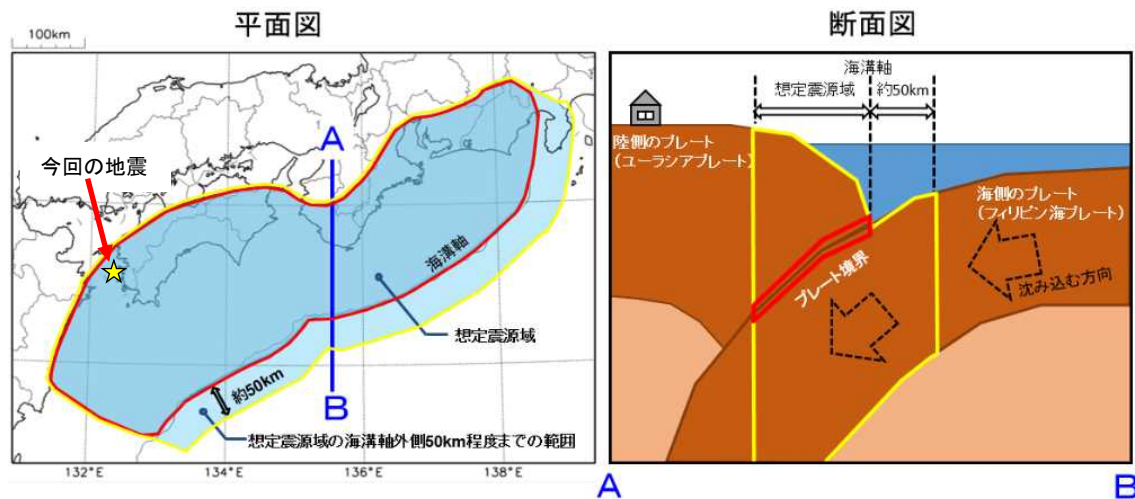
地震一口メモ

南海トラフ地震の監視領域内で発生した地震

～2024 年 4 月 17 日の豊後水道の地震～

今年の 4 月 17 日 23 時 14 分、南海トラフ地震の想定震源域内の豊後水道で地震が発生しました。地震の規模はマグニチュード 6.6、震源の深さは 39km、この地震により、愛媛県の愛南町、高知県の宿毛市で震度 6 弱を観測しました。震源がやや深い場所だったため、津波は発生しませんでした。関東から九州地方にかけての広い範囲で揺れ、中国地方各県でも最大震度 4～3 を観測しました。

ちなみに、現在の震度階級が導入された 1996 年以降、四国地方で震度 6 弱の観測は初めてでした。



- ・ 左図は、南海トラフ地震の監視領域を示す平面図、右図は平面図のA-Bを西から見た断面の模式図
- ・ 赤線は、最大規模の南海トラフ地震の想定震源域
- ・ 黄線は、監視領域（想定震源域および海溝軸外側 50km 程度）

南海トラフ地震との関連性について

南海トラフ地震の監視領域内においてマグニチュード 6.8 以上の地震が発生した場合には、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催し、南海トラフ地震との関連性について調査を開始します。今回の地震はマグニチュードの基準に達していなかったため、評価検討会の開催には至りませんでした。

地震の翌日に開催された政府の地震調査委員会（臨時会）において、「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」と評価されました。しかし、南海トラフ沿いの大規模地震は、いつ突然に発生してもおかしくない状況が続いているので、日頃からの地震への備えをしていただくことが重要です。